

高等学校における生徒指導・教育相談に関する校内研修の活性化についての研究
～校内研修におけるスクールカウンセラーの活用～

福島県立いわき光洋高等学校 教諭 永瀬 雄次

1 研究の趣旨

平成24年度福島県教育センター研究紀要の「生徒指導・教育相談に関する校内研修の活性化についての研究」では、高等学校（以下、高校）における、実施時間確保の難しさや生徒指導・教育相談担当者（以下、担当者）の負担過多などによる、校内研修実施・運営上の課題を指摘している。併せて、スクールカウンセラー（以下、SC）を人的資源として活用することを、活性化のための一改善策として提言している。本県における問題行動率は全国では低いものの、学校生活に関する様々なトラブルに関する相談件数は増えている現状でもある。SCは心理的専門職として、主にカウンセリング活動を中心にしているが、教職員などへの研修活動も職務として挙げられる。

このような理由から本研究では、以下の仮説を設定し、校内研修におけるSC活用の有効性を検証し、具体的なSC活用モデルの提示をする。

生徒指導・教育相談に関する校内研修に、SCを各高校の現状及び各SCの特長に応じて活用すれば、現象面に加え心理面からも生徒理解が深まり、かつ具体的な指導援助策を見いだすことができ、校内研修の活性化が段階的に図られるであろう。

2 研究の概要

- (1) 研究協力校（3校）の現状とSCの特長に応じた、校内研修の実践と活性化の検証
 - ① 「事例研究の実践（問題解決的内容）」及び「集団づくりに関する演習（予防的・開発的内容）」
 - 「事例研究の実践」では、SCを進行役及び指導助言、担当者の進行補助及び指導助言、協議総括の指導助言の3パターンでの活用の下で校内研修を行った。
 - 「集団づくりに関する演習」では、構成的グループエンカウンターを実施した。SCは進行役及び指導助言を担当した場合と、担当者と発表者が進行を分担し、SCが教職員と共に演習に参加し、指導助言を行う形で校内研修を実践した。
 - ② アンケートの実施と検証
 - 各回の校内研修終了後に「直後アンケート」を実施し、研修内容の理解と今後への実践意欲について確認し、意識面の変容に関する検証を行った。
 - 全2回の校内研修終了後に「事後アンケート」を実施し、SC活用による校内研修の活性化、有効性、SC自身の自己評価について確認し、行動面の変容に関する検証を行った。
 - ③ 校内研修におけるSCの具体的な活用モデルの提示
 - 学校の現状・SCの特長・研修内容を考慮したパターン分けを行う。
 - 上記のパターンをフローチャート化し、具体的なSCの役割を提示する。
- (2) 校内研修におけるSCの具体的な活用モデルに基づく実践と検証
 - ① 勤務校での実践（問題解決的内容）
 - 「傾聴」を重視した相談面接演習（SCは演習上の留意点を講義し、指導助言を担当）
 - 参加した教職員・担当者・SCに、事前・直後・事後のアンケートを実施し、各立場からの校内研修に対する活性化の度合（意識面から行動面までの変容）を検証する。
 - ② 高教研いわき地区養護教諭部会との連携によるSCの具体的な活用モデルの調査
 - 学校の現状・SCの特長・校内研修実施及びSC参加の有無について
 - 各学校における具体的なSCの役割について

3 成果と今後の課題

- (1) 研究の成果
 - ① 校内研修が段階的に活性化されたことの確認
 - 教職員が心理面から生徒理解をし、チーム単位での継続的な事例研究やケース会議等が実施されるようになった。また、構成的グループエンカウンターを、クラス・学年単位で実施することで、集団作りに生かすことができるようになった。
 - ② 校内研修におけるSCの具体的な活用モデルの提示
 - 学校の現状・SCの特長・研修内容に応じた、SCの役割を示すことができた。
- (2) 今後の課題
 - ① 校内研修におけるSCの具体的なモデルのさらなる検討
 - 学校の現状・SCの特長をより詳細に分析して研修内容に応じた役割分担の在り方を再考していく必要がある。
 - ② SC活用の推進を図る担当者の育成
 - 養護教諭だけではなく、特別支援教育コーディネーター等の担当者になる人材を育成するため、参考資料や外部への研修機会を紹介することが求められる。